KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBO

一般にデイサ

ビスで提

利用者も職員も変身 心

天橋の郷通所介護事業所 (京都府宮津市)

いる。 等」でもよいことになって と同様の「アクティビティ カ所で行った。 プラン導入事業」を府内3 業 「通所介護カフェテリア 京都府は昨年度、モデル事 きる内容に出来ないだろう で、自宅や地域でも継続で ビス内容については、 介護予防通所介護のサー しかし、 。そうした思いから より効果的 従来

にある天橋の郷通所介護事 その一つ、京都府宮津市

府のモデル事業に参加カフェテリア方式のデ

台にある。 なっている。 と開放感あふれるつくりに 施設全体が非常にゆったり を含め90人)に併設され、 室・ユニットケアの特養ホ まだ新しい同事業所は、個 分ほどの、 て有名な天橋立から車で15 ム (定員は短期入所20人 天橋の郷通所介護事業所 日本三景のひとつとし 昨年5月開所と 宮津港を望む高

大きな窓から陽の射す

のぞいて見ると、 広々としたホール ル)やデイ 3 (地域交

る。 分かれ、それぞれが違うこ 端切れで人形を作ってい とを行っている。あるグル いる人たちもいる。「デイ ループ、自転車こぎをして ラフトを、 から6~7人のグループに ょっと変わってるな」、と ープは組みひもを編んだク プもあれば、円卓でビリ ービスの光景としてはち カラオケを楽しむグル ドゲームをしているグ 別のグループは ルームを Á 人

> とを選び、 遇的なデイサービスとは全 ことができる点で、集団処 を自分なりにアレンジする さまざまな小グループ活動 ティはあっても、 供されるプログラムは、曜 く異なる。 の中から自分のやりたいこ 橋の郷では、利用者自身が しかないわけだ。しかし天 るプログラムを受け入れる なかろうと、 は、それに興味があろうと ったやり方が多い。 日や時間帯によってバラエ 一斉に同じことをするとい 1日の過ごし方 職員が提供す 利用者が

冬実施した「通所介護カフ 天橋の郷だが、 重視する観点から、 のモデル事業に参加したこ ェテリアプラン導入事業」 プ活動を取り入れてきた 開所当初から個別ケアを その取り組みは大き 京都府が昨 小グル

カフェテリアプランとは

れた)。 性を高め、 種々の福利厚生メニュー 業は府内3事業所で実施さ げていこうというのが事業 従業員が自由に選べる制度 のねらいである(モデル事 で、利用者の自主性・積極 サービスに応用すること のこと。この仕組みをデイ もともと、企業が提供する 介護予防につな を

構想が、私たちがやろうと と、施設長の北條千恵子さ たい』と手を挙げたんです」 ものだったので『ぜひやり んは経緯を説明する。 していることと非常に近 「カフェテリアプランの 3カ月のモデル事業の成

とし込み、利用者と職員が グループ活動を、「アセス錯誤しながらやってきた小 活動の目標や方向性をし 果としては、それまで試行 かり共有できるようになっ IEプロセス=注1)に落 という一連の流れ(A-P メント →計画→実施→評価

目的意識や主体性が高まる小グループだからこそ

予防給付対象者である。 の約4割が要支援1・2の ビスは定員30人。 プログラムは体を動かす 現在、天橋の郷のデイ

るという。

ついたことなどが挙げられ

プと、 を中心とした「健康グルー フクロウの人形づくり、 を使った自転車こぎ、 分かれている。 大きく二つのカテゴリ とした「お元気倶楽部」の ものやゲー 前者のメニューはマシン ものづくりを中心 ム性の高いもの

画・実施している。

されている。 雰囲気づくりにも配慮がな ぞれ落ち着いて取り組める 域交流ホー 運動系のプログラムは地 ムで実施し、 ルで、その他は それ

運動器の機能向上プログラ 「健康グループ」に参加す が好きなメニューを選ぶ はこれと、利用者それぞれ ムバンドを用いたエクササ で行うバランスボールやゴ る。予防給付対象者向けの ないし午後の1時間半、 が、予防給付対象者は午前 ての活動だけでなく、全員 ブ」は小グループに分かれ いるためだ。「健康グルー ムとして別個に位置づけて 基本的に午前はこれ午後 歌にあわせた徒手体

KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO



■手作りクラフトに挑戦中。談笑しつつも手先は止まらない(右の

■立っても座ってもできるボウリングは一番人気だ。優秀者のスコ

アが貼り出されていたが、91歳男性の259点を筆頭に、ハイスコア

■円卓を囲み、座ってできる「神戸式ミニヤード」は男性に人気の あるメニューのひとつ。「ビリヤードより難しいくらいだよ」(左下)

がずらり (左上)



援助につなげる意識が身に 記録を、活動の振り返りや 式(注2)を活用した個別 たこと。また、SOAP方

職員にも自分たちがやって られるようになりました。 るのか、そういう視点でみ の自立支援につながってい いることに対する自信が出 「この活動がどう利用者

てきたように思います」

利用者や目的に応じて計 後者のメニューは指編み 型テレビゲームのボウリン クリル毛糸のたわしづく や、機織り、キルト、染色、 ツ、ダーツ、ジェンカなど。 も楽しめるニュースポー クゴルフといった高齢者で グ、スカイクロスやスナッ 木工など実に多彩で、 体感





が、

「メンバー

を固定して

続にも役立つ〃

しかけれも

を選択するやり方だった 利用者がその日にメニュー 日はこれをやりたい」と、 固定している。以前は「今

標に、

10 ㎞進むごとに認定

「丹後半島一周」を長期目

自転車こぎは

証がもらえるといった、

楽

モチベーションの持

ル事業以降、

グル

ープの

コアをとった人には月ごと

ムで優秀なス

GO · YOBOU · KA-GO

YOBOU · KA

1G0 · Y0B0

施設長の北條さん

ーも職員も原則として

なお、天橋の郷ではモデ

目的を持って取り組みやす 継続的に取り組むほうが A-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU



が生まれたのだろうか。 利用者にはどのような変化 ジャの動くし

えからだ。

ションも深まる」との考

うだ。実際、

ボウリングや

ミニビリヤ

ドなどの対戦

性もこれなら興味が持てそ

に行う歌や体操は苦手な男

用意している。大勢で一緒

活動内容やコミュニケ

小グループ活動によって、

型ゲームのグループに男性

の姿が多くみられた。

方、

、「お元気倶楽部」

■一投一投、集中して矢を投げる。まっすぐな姿勢を保ち、肩から腕、指先にかけ単一投一投、集中して矢を投げる。まっすぐな姿勢を保ち、肩から腕、指先にかけ単一投一投、集中して矢を投げる。まっすぐな姿勢を保ち、肩から腕、指先にかけ

距離、

3カ月ごとに行われ

が制作した物品を販売し 006」に参加し、利用者 ふれあいフェスティバル2

コアや勝敗、自転車こぎの の活動の場合、ゲームのス りました」と語る。

たとえば「健康グループ」

今年9月には「京都SKY

くりたい」と考えている。 人の鑑賞に堪えるものをつ も商品価値があるもの、

に通ってこられるようにな

デイでの活動を楽しみ

目的意識ややりが

いを持っ

北條さんは、「ささやかで

はものづくりが中心だが

北條さんは、

「利用者が

動機づけになる。ボウリン

具体的な数字が、

ひとつの

ばれるものを作ることが

「売れるも

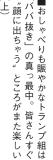
Ŏ,

やりがいを生み、

残存能力

る体力測定の数値といった





■塗り絵の一コマ。数本の色鉛筆を持ちゃんも嬉しそう(左)

指摘する

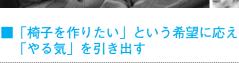
了 20 人、

ミュニケー

ました」と、

とんどです」





よって手に不自由が残っている。そのときのB さんと職員のやりとり。 「椅子を作りたいけれど、設計図を書いた

椅子を作りたいというBさん。だが、マヒに

ことなんてないよ|

- 「私が手伝いますよ」 В
- 「ノコギリが、うまく使えないよ」
- 「電動ノコギリを使ってみましょう」 В 「木材はどうやって固定するの?」
- 「大きいクリップを使えば、簡単に固定で きますよ|
- 「釘をまっすぐに打つのは、ちょっとむつ かしそうだな……| 「木ネジで止めましょう」

※「介護予防サービスに係る参加・継続推進事業に関する調査研 究報告書 一新たなデイサービスのあり方を求めて一」 年3月、京都府)21頁を一部改変

対してイライラしたり仲間 だと、うまくできない人に また、「利用者同士のコ 30人の集団活動 ションも良くな 北條さんは 除いて、 ころ考えていない 防給付の運動プログラムを は大切な要素。 えあいも自立支援にとって のランクで活動内容やグル プを分けることは今のと 利用者同士のこうした支 要介護度や認知症 だから、 とい

がかに引き出せるかの用者の希望、やる気

がみられるのですが、

少人

はずれにしたりするケー

ż

数のグループではそれがな

ムワ

クが生まれ

職員の姿勢にも大きな変 やる気を 「うーん。じゃあやってみようかな!」 子 ので、 グルー 0 が、

できるようになるんです」

つことや手助けすることが るというか、不思議と、待

化があった。

私たちの仕事。 る (別掲参照)。 な希望を持って

者との協働型に変わったと いえるのかもしれない。 また、介護員の大木眞一 天橋の郷ではデイそのも 職員主導型から利用

せんが、 さんはこう話す。 ているのはむしろ利用者の のテンションが高いデイサ ビスが一般的かもしれま たり笑わせたりと、 われわれが目指し 「盛り上 職員

ういますよ」 になったという人もけっこ ています。 を引き出すことにつなが 家でも作るよう

持っています。今まで作っどいろいろな特技や知恵を 的になりがちな大集団デイ 子さん。「皆さん、驚くほ すのは、相談員の はこんなことをやりたい まる。「職員が一から十ま 者の希望や意見によって決 具体的な活動内容は、 とは違い、 の方から教わったものがほ てきたものも、 ん発展させてくれる」と話 で準備しなくても、 したらもっと楽しい』『次 も向上した。受身的で義務 利用者の自主性・積極性 利用者が活動をどんど グループ内での 実は利用者 一廼穂明 **『**こう 利用

て最も大切なことです。 すね」と、一廼穂さんは語 ることが仕事ではないんで の方とお話したり接したり か、それをくみとり支援し している中にヒントがある やる気を引き出すのが それを聞き逃さない プ活動の中で利用者 のが個別ケアにとっ 何かを教え いるの

ビス(笑)。自分が楽しめ、 テンションが高いデイサ をしてこそ、 やりがいを感じられること

Ġ

YOBOU

G

Ġ

GO

OBOU

0 B 0

京都府は、介護予防を視野に入れた新たなデイサービスについてのモデル事業を昨 年度実施、その結果をふまえて、このほど「京都式えらべるデイサービス実施マニュ アル をまとめた。

天橋の郷を含む府内の3カ所の通所介護事業所で行ったモデル事業の結果は、今年 5月に「介護予防サービスに係る参加・継続推進事業に関する調査研究報告書」とし て発表されているが、参加した利用者・ボランティア、施設側のそれぞれに大きな成 果があったことから、今年度は「えらべるデイ」を府内全域で推進する方針だ。

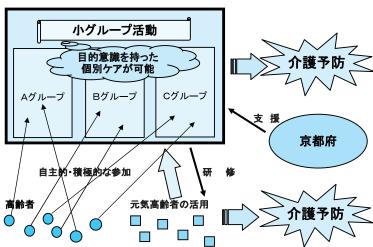
その手引きとして作成したのが、「京都式えらべるデイサービス実施マニュアル」。 えらべるデイの特徴は下の図のとおりで、これまでの多くのデイサービスが集団的・ 画一的なサービスで、利用者も義務的で消極的になりがちだったのに対して、利用者 が自ら小グループを選び、できるだけ小グループを固定して活動することにより、▼ 目的意識を持った個別ケアが実現、▼利用者の活動意欲が向上して自主的・積極的に 参加するようになり心身機能が向上、▼自宅でも活動に取り組む継続性が生まれ日常 生活行動が活性化、といった効果を狙ったもの。

通所介護事業所の現状

- ◎ 集団的処遇・画一的なレクリエーション
- 職員から利用者への一方的なサービス提供
- 楽しみが一時的、その場限り
- 団塊世代の高齢化への対応が必要



京都式えらべるデイサービス推進事業



また、団塊世代の高齢化に対応するため、元気高齢者にボランティアとして参加し てもらい、生きがいづくりの受け皿を準備するとともに、元気高齢者自身への介護予 防効果も期待できる。さらに、利用者が通所を終了してもボランティアとして引き続 き参加するという介護予防の継続的取組も可能だ。

この「京都式えらべるデイサービス推進事業 | を担当している京都府保健福祉部高 齢・保険総括室介護保険推進室の荒田均室長は、「事業の目的は、高齢者が楽しみ・ やりがいを感じながら、意欲を持って自主的・継続的な活動に取り組めるよう個別ケ アを実施することにより、生活機能を向上させ、介護予防となることを目的としたデ イサービスを提供することです。マニュアルは、そのための参考書。職員主導ではな く、利用者に応じて内面の力をいかに引き出し活動意欲を高めるか、そして最終的に 在宅生活の維持・質の向上につなげていくこと。それが個別ケアの本質です。職員一 人ひとりがそういった意識改革ができるかどうかが事業成功のポイントになります」 と話している。

北條さんは絶賛する。 「その力は予想以上」 時代を生きてきたという 「利用者と年齢が近く

さり気ない関わり

方だが

こともあって、

使う言葉や

0 き出してくれる場面も多 利用者の気持ちや願 話題ひとつとっても、 を共有して いを引 ます。 多く

用者と私たちの橋渡し的存 ところがたくさんある。 といえます ほとんどが70歳以上で、 職員にとっては教わる

利

すので教わることも多く 0 ま自らの生きが ボランティア活動がその るようだ。 Mさんは 「人生の先輩で ボランティ いになっ

話になれたら嬉し は少 7 61 られ ・ます。 しでも長く元気老 るよう頑張りた 私も将来お世 13

7 T とても良い経験をさせて頂

てい 帳を使って個別記録をとっ ちょっとした合間に電子手 コンピュ 業務で効率化できるところ たとえば記録 夫も行っている。 できるだけ効率 る (写真)。 そのままホスト 夕に移されるた 入力した 職員は、 化を図る

勤8人

(予防含む)。

集団

るように思われた。

天橋の郷の職員配置は常

しさとやりがいを感じてい

小グル

プ活動に楽

処遇的なデイであれば十分

かもしれないが、

個別ケ

がない

改めて時間を割く必要

・小グループ活動を主体

GO · YOBOU

G O

YOBOU · KA-GO · YOBOU

KA-GO.YOBOU

·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·

それは難し

います」

用者だけでなく職員も

目 び

を

うつく。

強いサポ ボランティアだ。 さらに、 って モデル事業ではボランテ いるのが元気高齢者の 職員にとって心 ーになってく

露するのではなく、 続している。 事業に参加した。 何かを教えたり 天橋の郷で活動を継 緒に楽 グル

として参加するスタンス 、特技を披 む仲間









職員一

がどう考

社会福祉協議会や老人クラ

^を通じて募ったボラン

府の研修を受けて

して位置づけられており

アの活用がひとつの柱と

8人で少なすぎるとは感じ

ていません」と、

北條さん

ケアができるというもので

職員の数が多ければ個別

はありません。大切なのは、

ではないだろうか。だが

ってはきつい面もあるの

としているだけに、

職員に

- ■崩さないように、そーっとそーっと木のブロックを積み上げていく「ジ ェンガ | 。手先の緻密な動きと集中力が必要だ(右上)
- ■3時のおやつで、ちょっと一息(左上)
- ■グループ活動が中心だが、利用者がそろって体を動かしたり歌ったりす る全員参加のプログラムも取り入れ、メリハリのある過ごし方をしている。 左の女性が相談員の一廼穂さん(右下)

■ディの終わりは皆そろって「天橋の郷音頭」(作詞は施設長)を歌う 伴奏は元ピアノの先生だった90代の女性(左下)

01 介護保険情報 2006.11

KA-GO·Y

い」と話す。

を持てる暮らしを自宅や地域でもやりが

61

げてもらった。 條さんにいくつかの点を挙 今後の課題について、

と思います」 という評価もしやすくなる 意識的な関わりができる た。目標を明確にするほど、 標設定はしているものの あいまいな表現も多かっ 目標をより明確に設定して いくことです。今までは目 し、どこまで達成できたか 「まずは、 一人ひとりの

ひとつだ。 を盛り込むようになってい てる時点で小グループ活動 ネジャーがケアプランを立 治市の事業所では、ケアマ 深めていくことも、 るが、天橋の郷ではまだそ モデル事業に参加した宇 課題の

括支援センターとの連携を

ケアマネジャーや地域包

する。 トや、どんな人に適してい るかなどが、ケアマネジャ いない」と北條さんは指摘 小グループ活動のメリッこまでは至っていない。 らにまだ十分理解されて

れている利用者もいます」 利用できなくなることを恐 度が改善して、天橋の郷を 軽度の方の中には、要介護 とんどありません。 受け皿が、まだ地域にはほ りがいを感じられるような れたとしても、楽しさやや 後利用者の要介護度が改善 不足」も懸念される。「今さらに、「地域の受け皿の して介護保険の対象から外 デイサービスでの楽しさ 実際、

SOAPだが、

(2)

デイの外へと広がっていく や集中力、歓声と笑い声が、 きいきとした表情、力強さ だ。この日みた利用者のい の目標は、そこにあるはず ていけるかー -。自立支援

> ように。 挑戦を期待したい。 天橋の郷の次なる

KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO·YOBOU·KA-GO

文 /田中和泉 撮影/竹林尚哉

て成り立つプロセスのこと。 Evaluation (評価) によっ Implementation(実施)、 ント)、Planning (計画) 問題指向型医療記録も ここではそ いくことを



や地域での暮らしにつなげ ややりがいを、いかに自宅

■天橋の郷全景。右手の二階建て部分が個室・ユニットケアの 特養ホームで、左手がデイサービスのスペース。

■社会福祉法人北星会 天橋の郷通所介護事業所 〒626-0066 京都府宮津市字獅子190番地の4 TEL 0772-22-0066 FAX 0772-22-8585 E-Mail tenkyonosato@wine.ocn.ne.jp

員が分析し結論づけるかを るか(P)を順に記録して まとめ (A)、▼問題に対 実を記録し (○)、▼Sと (S)、▼職員が観察した事 Assessment, Planの略で、 Data, Objective うではなく、Subjective してどのような計画をたて 〇に基づいてどのように職 が発したままの言葉で述べ ▼利用者本人が何を言った 何を感じたかを利用者 Data,

は(1)

Assessment (アセスメ A-PIEプロセスと 注

好評発売中 平成18年4月版

定価500円(税込) 40頁、送料一冊200円 全国老人保健施設協会 編 B5判·2色、 (社)

1冊のみのご注文は送金申込となりますので、郵便切手(または郵便為替)700円分を同封し、 社会保険研究所宛に郵送して下さい。書店・取次経由のお取り扱いはできません。

〒101-8522 東京都千代田区内神田2-4-6 WTC内神田ビル 社会保険研究所 TEL (03)3252-7901(代) FAX (03)3252-797